# 新人看護師 成長記録

## － 母性西棟編 －

2022 年度入職の新人さん方も無事一年をすぎて 頼もしく成長しています
これから看護師を目指す皆さんへのメッセージです
今回は母性西棟編です それではどうぞ

最初は慣れないことばっかりで今でも自分の知識不足を痛感して毎日悩んだり落ち込んだりしています。

同期とは毎日励ましあって、勤務後や休日にご飯を食べに行ったり遊びにいったりしていて、それが頑張る原動力になっています。

今の同期がいなかったらここまで続けられなかったなと思います。
（母性西）

入職したときと比べると、少しずつできることが増え、自分なりの看護ができるようになってきたかなと感じています。

最初はマニュアル通りに業務をこなすことを重要視していましたが、それぞれの患者さんの特徴を理解しながらケアの方法を考えたり、応用したりできるようになってきたことは、成長したと感じるところです。

何より患者さんから感謝の言葉をいただいたり、手紙をもらったりすると、自分の思いが患者さんに届いているということが実感でき、とても励みになります。

日々働く中で自分の無力さを感じたり、しんどいと思ったりすることもありますが、同期の仲間と同じ思いを共有しながら支え合っています。私もまだまだなので、一緒に頑張りましょう。（母性西）

日々慣れないことや勉強で大変ですが、患者さんとの関わりでやりがいを感じることもあります。

また同期は悩みを相談したり、本当に大切な存在だなと思います。
（母性西）

学生時代に実習に行けないことが多く、患者さんとのコミュニケーションもはじめは自信がありませんでしたが、先輩方が一から優しく指導してくださり、自信をもって患者さんと接することができるようになりました。

また、困ったときは助け合う雰囲気があり、処置やケアに自信がなくても安心して働けています。

休日もできるだけ希望を通してくださるので、友達や家族と遊びに行ったり趣味に没頭できる時間も作れます。（母性西）

- 長期にわたり入院していた患者が出産し、外来の一か月健診で再会できたときに、妊娠期から産褥期にわたって継続的な看護に関わっていることを実感し、やりがいを感じた。
- 入職時は、先輩と話をするだけでも緊張していたが、今は先輩と密にコミュニケーションを取れるようになり、出勤することが苦痛じゃなくなった。
- 夜勤では、日勤と比べてスタッフの人数が少なく、受け持ち患者数も増えるため、自分自身の観察眼の未熟さや責任の重さを改めて実感した。
- 母性棟の同期は 11 人いて、困ったことや辛いことがあったら全員で共有して励ましあうなどの関係性ができている。（母性西）